

■地球温暖化防止分野ワーキングチーム

講演テーマ	概要	主な意見(有識者等)
<p>1 企業における省エネ対策と取組事例</p>	<p>【エネルギー管理の対象】 ・空調熱源 ・ポンプ熱輸送 ・給湯用ボイラー など</p> <p>【省エネルギー化への視点】 ・その量、その質が本当に必要かどうか。 (例) 誰もいない場所、時間であるにも係わらず電力の使用がある。 空調の設定温度が通年同じである。</p> <p>【省エネルギー化の事例】 《事例1:病院》 ・空調機を高速運転から低速運転へ切り替え、現場とのコミュニケーションをとり連続運転を停止できる箇所を作ることで年間1500万円の電力費を削減 《事例2》 ・空気漏れの音が社長にはお金がこぼれている音に聞こえるとのことから、“空気漏れはお金が漏れている音”と張り紙にして掲示。 《事例3》 ・トイレに施設内のエネルギー使用量一覧を掲示。 ・エアコンのスイッチの横に1時間あたりの料金を表示。 《事例4》 ・空調の吹き出し口が天井にあるが、高天井のため、暖房が効かないことから、空調を停止。 《事例5》 ・エコキュートを利用し、夏場、内側に冷たい排気を入れることにより、夜間の調理場を冷却。 《事例6:ホテル》 ・空調が2系統あり、いずれも連続運転を行っていたが、片方の系統で24時間空調が必要な場所をカバーできるように配管を整備。 《事例7》 ・一定温度になるとパライザーが鳴り、必要以上に使用している部署が分かるように。 ・壁を透明にし、照明を節約。 ・天井を下げ、空間を小さくすることにより、空調の使用量を削減。 《事例8》 ・省エネでコストカットした分を売り上げアップと同等と位置づけ、担当者のモチベーションに繋げることにより、対策を促進。</p>	<p>・2016年11月に発効したパリ協定は世界的な約束であるが、その主役は地域であり、自治体であり、事業者である。世界的に見ると、CO₂排出量ゼロ、再生可能エネルギー100%の実現に向けた取組が進展しつつあり、抜本的な省エネルギー対策や再生可能エネルギー導入について、事業者の積極的な取組に期待している。</p> <p>・現場レベルでの取り組みとして、省エネルギーの工夫はいろんなところに転がっており、その運用には改善余地がある。改善効果の良い事例が社会で共有されると省エネ診断もさらに発展する。</p> <p>・企業が省エネ対策を実施する際には、単に投資回収に何年かかるかだけで判断してはいけない。コストだけを見るのではなく、CO₂削減効果・安全性・リスク回避など対策の実施で生まれるメリットをおまけではなく前面に押し出すことで、対策の実施に向けた可能性を高めることができる。</p> <p>・事業者の省エネ改善効果を社会で共有することが重要である。ライバル関係といえる同業者や管理対象設備が同じ事業者同士が互いのエネルギー管理に関する創意工夫を共有するため、現場を管理する立場の人達の連絡会を設け、現場レベルで悩みを共有し、情報共有や意見交換している。そのような試みが様々なところで実施されている。</p> <p>・省エネ対策を進めるには、体制整備も重要である。エネルギー管理の担当部署だけでは省エネはできない。省エネを実践するのは現場であり、現場をどのように取り込むのか体制上の工夫が必要である。 エネルギー管理を専門に扱う部署を設置できない場合でも、各部署の担当者を決め、部署ごとに目標を割り振って競わせ、その結果により、省エネに効果がある取組を見つけ出すという事例もある。</p> <p>・京都府、京都産業エコ・エネルギー推進機構では、無料の省エネ診断や補助事業など事業者の省エネ・再エネ導入を支援する各種事業を実施している。積極的な活用をお願いしたい。 ◇一般社団法人京都産業エコ・エネルギー推進機構のホームページ http://www.kyoto-eco.jp</p>
<p>事例発表テーマ</p>	<p>概要</p>	<p>主な意見(有識者等)</p>
<p>2 気候変動に適応した商品開発の取組 ～冷感衣料で乳牛の夏バテ防止～</p>	<p>【商品開発のきっかけ】 ・乳牛は暑さに弱く、夏期には搾乳量の減少、熱中症等が問題となる。 ・近年は温暖化の影響からか真夏日を記録する日が増加しており、効果的な暑さ対策が求められている。 ・牛舎に冷房を導入することは設備投資を必要とし、光熱費もかかる。</p> <p>【商品開発の内容】 ・京都府農林水産技術センター畜産センターとの共同研究・開発。 ・夏期の暑さに対する比較的成本を抑えた対策方法として、人用の冷感肌着を牛の冷感衣料に応用。 ・冷却効率を上げるため、定期的に散水し、気化熱を利用。 ・搾乳や牛への脱着のしやすさ、装着時のズレ、冷却効率等を考慮しながら、度々試作。 ・散水せずとも水を自動で給水するシステムを開発。</p> <p>【現在の状況】 ・もう少しで商品化できる段階。 ・試作品を配付して効果の検証や使用感の意見を収集。 ・まだ検証数は多くないが、効果について好意的な意見が集まっており、販売を開始したいと考えている。 ・まずは乳牛で成果を出すことを目標としているが、熱ストレス軽減の効果が期待できるので、繁殖用途や他の動物(ウマなど)への応用にも取り組んでいきたい。</p>	<p>・気候変動に適応する対策として実践的で非常に興味深い。酪農家にとってメリットがあるだけでなく、開発メーカーにとってもビジネスチャンスとなっている。</p> <p>・まさに適応ビジネスの1つになりうるものである。事業化に向けて取り組んでいただきたい。</p> <p>・このような気候変動適応の具体的な実践は、国や自治体よりも民間企業を中心であり、この認識が拡がり、様々な分野で気候変動適応が進んでいくことを期待する。</p>